

闘いの記録 9月~12月

【陸上競技部】

■第7回九州学生陸上競技新人選手権大会

- (10/15~16 長崎/島原市営陸上競技場)
- ▽男子 三段跳 1位 中村 勇斗
 - ▽女子 やり投 1位 平松 委穂里

【テニス部】

■2022年度全日本大学対抗テニス王座決定試合(女子58回)

- (10/7~12 愛媛/愛媛県総合運動公園テニスコート)
- ▽女子 ベスト8 鹿屋体育大学

■令和4年度第1回九州チャレンジカップ

- (11/5~7, 11/12~14 福岡/グローバルアリーナ)
- ▽男子 1位 鹿屋体育大学

【男子バレーボール部】

■2022年度九州ビーチバレー大学男女リーグ戦

- (11/13 沖縄/西原キラキラビーチ)
- ▽男子 1位 八木、井上

【女子バレーボール部】

■令和4年度九州大学秋季バレーボール女子1部リーグ

- (9/23~10/23 沖縄/豊見城市民体育館他)
- ▽女子 1位 鹿屋体育大学

■第69回全日本バレーボール大学女子選手権大会

- (11/29~12/4 東京/大田区総合体育館他)
- ▽女子 ベスト8 鹿屋体育大学

【体操競技部】

■第65回九州学生体操競技新人大会

- (10/15~16 福岡/北九州市立総合体育館)

- ▽男子 団体総合 1位 鹿屋体育大学
- 個人総合 1位 有政 佑真
- 種目別つり輪 1位 石黒 聖馬
- 種目別平行棒 1位 大木 悠真

- ▽女子 団体総合 1位 鹿屋体育大学
- 個人総合 1位 北野 咲希
- 種目別跳馬 1位 北野 咲希
- 種目別平均台 1位 北野 咲希
- 種目別ゆか 1位 植村 結衣

【水泳部】

■第64回日本選手権(25m)水泳競技大会

- (10/22~23 東京/東京辰巳国際水泳場)
- ▽女子 50m自由形 7位 久保田 梨琉

■ジャパンオープン2022

- (12/1~4 東京/東京辰巳国際水泳場)
- ▽女子 200mバタフライ 5位 後野 真衣
 - 50mバタフライ 6位 仲田 葵

【剣道部】

■第70回全日本学生剣道優勝大会

- (10/30 大阪/エディオンアリーナ大阪)
- ▽男子 ベスト8 鹿屋体育大学

■第41回全日本女子学生剣道優勝大会

- (11/13 愛知/春日井市総合体育館)
- ▽女子 1位 鹿屋体育大学

【ウインドサーフィン部】

■2022年度九州学生ボードセーリング選手権

- (11/5~6 福岡/福岡海岸クロスオン)
- 団体 1位 鹿屋体育大学
 - ▽女子 ウインドサーフィン部門 1位 岡 知里

【なぎなた部】

■第47回西日本学生なぎなた選手権大会

- (11/20 大阪/熊取町立総合体育館)
- ▽女子 演技の部 2位 砂川、秋葉
 - 個人試合 有段の部 2位 砂川 海空
 - 個人試合 段外の部 1位 川添 郷香

3年ぶりに 蒼天祭 2022 を開催!

11月6日、鹿屋体育大学の学園祭「蒼天祭」が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの開催となった今回は、1日のみ、学内者限定の規模縮小による開催という形になりましたが、会場の多目的グラウンドにはさわやかな秋晴れのもと、多くの学生・教職員が集まり、久しぶりの学園祭の雰囲気を楽しみました。

ステージでは、蒼天祭名物企画「マッスルコンテスト」や「のど自慢」をはじめ、オンラインフォームを活用して行われた「方言クイズ大会」、「ビンゴ大会」などさまざまなイベントが行われ、大盛況となりました。また、「ゴーストジャスト」や「タイムマシン3号」や「四千頭身」を迎えたお笑いライブでは、多くの観客が集まり、終始笑いの渦に包まれました。

そのほか、大学の教育研究に関するパネル展示や、本学がKKB鹿児島放送と共同開発し、普及を進めている子どもの体力向上を目的としたダンス運動「Exseed」の体験イベント、スポーツパフォーマンス研究センターの見学・機器の体験会なども同時開催され、普段なかなか体験できない運動プログラムで汗を流したり、最新機器を使った測定を行ったりしました。

久しぶりの蒼天祭の開催に学内がとてもしげやかな1日となりました。



持ちか子准教授の指導の下でExseedを体験



「マッスルコンテスト」に出場し、マッチョガリを競う学生たち



模擬店にもぎわいました

第4回在留外国人日本語スピーチコンテスト 準優勝

本学留学生 チェン・イーチェンさんが

「第4回在留外国人日本語スピーチコンテスト」が、11月26日に鹿屋市国際交流協会創立25周年記念講演会の中で開催され、本学留学生チェン・イーチェン(陳怡楨)さん(台湾・鹿屋体育大学博士後期課程2年)が準優勝を受賞しました。

コンテストには鹿屋市在留中で、ミャンマーやベトナムなど出身地や滞在期間、立場もさまざまな10人が参加しました。2番目に登壇したチェンさんは「鹿屋での経験と決意」と題し、来日してわずか2カ月間に経験した①例えば、「じゃない」のように、イントネーションで意味が大きく変わる日本語の話、②ペーパータオルよりもハンカチで手を拭くことが一般的な日本文化のエコな部分に感銘を受けた話、③同じ発酵食品で匂いの強い食べ物であっても、台湾の臭豆腐は食べられるが日本の納豆はどうしても苦手であるという食文化の話、といった3つの興味深いエピソードを紹介しました。その後、外国での生活には多くの困難を伴うが、困ったときに助けてくれたときに助けてくれた大学の教職員のみならず、親戚ややさしい鹿屋市の方々に大切に、これらも起ころうる困難を乗り越えていく決意を、自身の力強い言葉で表明しました。

チェンさんは入学して以降、コロナの影響で来日できない間も国際交流センター長の国重教授からオンラインで日本語等の指導を受けてきました。後日、国重教授とともに金久博昭学長へ受賞の報告に訪れたチェンさんは、学長から祝福の言葉を贈られた後「本学が世界の若者から選んでもらえるような大学になるよう、研究にもしっかり取り組んでください」と激励されました。

左から平川康弘理事・副学長・事務局長、金久学長、チェンさん、国重教授、前田明理事・副学長

情報発信中!

公式 HP

Twitter

Facebook

鹿屋体育大学ではこの「蒼天」や公式ウェブサイト、その他SNS等を通して広く皆様へ本学の活動情報をお知らせしております。ご覧になってのご意見、その他鹿屋体育大学の教育研究活動等へのご意見がございましたら、今後の運営・活動の参考にさせていただきますのでぜひお寄せください。ご意見・アンケートは以下二次元コードからweb入力できます。

鹿屋体育大学へのご意見をお寄せください。

お詫ひ
令和4年11月号2面、卒業生インタビューの記事にある「木場一総准教授は「木葉一総准教授」の誤りでした。訂正してお詫ひ申し上げます。